

Charging point 電気自動車用充電器 全国で1万4366基に

急ピッチで進む充電インフラ整備

地球環境に優しく、経済的な電気自動車（EV）は、次世代エコカーの代表格。実際に乗ってみると、走りの良さや静かさは感動ものだ。一度の充電での航続可能距離を懸念するドライバーもいるが、国内の充電インフラ数は6月末現在で1万4366基に上り、この不安は過去のものになりつつある。

政府は、緊急経済対策の「次世代自動車充電インフラ整備促進事業」として2012年度補正予算で1005億円を計上、14年度補正予算でさらに300億円を追加し、支援内容を拡充した。今年になり、これを利用した様々な事業が行われることで、EVに乗りやすい環境が急速に整いつつあるという。現在の状況を、経済産業省の自動車課に聞いてみた。

Charging point 充電の駅と高速SAに充電器を

経産省は「電欠なき日本」を実現するため、47都道府県にEV用充電器設置計画の策定を要請。さらなる整備を続けたい意向だ。今回の補正予算で集中的に整備されるのが、道の駅と、高速道路のサービスエリア（SA）、パーキングエリア（PA）への設置。14年度補正予算では標準的な充電器を設置する際のほぼ全額を支給することにしている。

現在、全国で1059カ所ある道の駅のうち、充電器が設置されているのは約400カ所。それを15年度中にほぼ全てに行き渡るようにする計画だ。約800カ所ある高速道路のSA、PAについても、現在の約300カ所から加速的に増やす意向。カーナビやスマホのアプリで充電場所などをチェックしながら、というEVによる遠出が変化し、高速道路利用でもSA、PAで頻繁に充電できる安心感のあるドライブが楽しめるようになる。

さらに、個人の自宅用も購入費のみ2分の1補助だったが、工事費も補助することとした。自宅用に適した安価なコンセントスタンド設置も補助対象となったため、費用は実質4万円程度となり、これまでよりも気軽に設置できるようになった。充電器には、30分ほどでフル充電ができる急速充電器と、8時間かかる普通充電器の2つがある。外出先で有用になる急速充電器の設置数は、5825基まで急増（ゼンリン調べ）。今後にもさらに増やす予定だ。

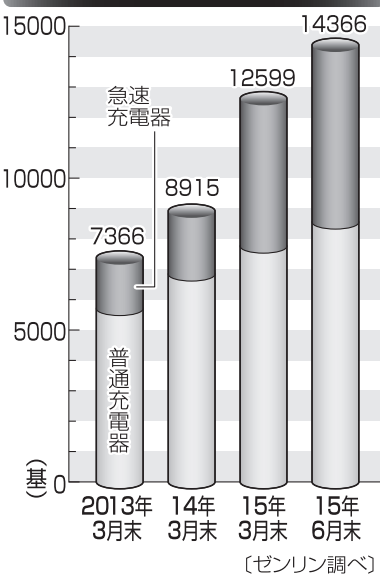
また経産省では5月から12月の間、あらかじめ登録を完了したEVとプラグインハイブリッド車（PHV）4万台を対象に、高速道路の利用料金の一部を補助する事業を開始した。目的は、登録したドライバーの高速道路利用状況から効率よく充電器を配置するためのヒントを得ること。首都高速道路や阪神高速道路などは対象外だが、調査協力費は1台当たり1カ月2万円、全調査期間で6万円を上限

としている。こうした政府の普及目標は、国の温暖化対策の目標値を定める約東草案の政府原案や長期エネルギー需給見通しの政府案の実現の前提ともなっている。



経済産業省自動車課の田中宗介課長補佐

急速・普通充電器の設置数(全国)



次世代自動車充電インフラ整備促進事業

- 制度内容** EV・PHV充電設備の設置に際し、国から補助金を交付。2014年度補正予算額は300億円
- 対象者** EV・PHV充電設備などを購入・設置する自治体・事業者・個人
- 申請期限** 2015年12月28日

事業	補助金交付の対象要件	国からの補助金	
		購入費	工事費
1	自治体の計画に基づく充電器設置	2/3 補助 〔道の駅〕は定額補助	定額補助
2	公共性を有する充電器の設置	1/2 補助 〔高速道路SA・PAなど〕は定額補助	
3	マンション、月決め駐車場、従業員駐車場などへの充電器設置 （コンセント・コンセントスタンドも対象）		
4	事業1～3以外の充電器設置 （コンセントスタンドも対象）		
5	課金装置や外部給電器の設置	定額補助 （課金装置）	

（注）補助金額に上限あり

道央のインフラ整備整い始め 観光地道東も増えてきている

北海道の冬は極寒と降雪という厳しい環境から、電気自動車用充電器のインフラ整備以前に、当初は電気自動車の性能に対する不安感もあったが、最近は厳冬期でも通用する電気自動車として認知が進んできている。北海道内のインフラ整備について北海道経済部に話を伺った。



北海道経済部産業振興局環境・エネルギー室・吉原大紀室長

北海道では、北海道EV・PHV普及促進検討研究会を発足し、道内における次世代自動車充電インフラ整備促進のための「北海道ビジョン」を作成している。都市間移動距離が長くかつ積雪寒冷地域であるという条件の下、適正な配置間隔での充電設備の整備を急いでいるが、可住面積当たりの急速充電器数が北海道は全国最下位（13年6月調査）である現状も背景にあるという。

ビジョンの基本理念としては①北海道をくまなく移動できる、②緊急時の充電に対応できる基盤を整備し、安心・安全に移動できる、③EVの航続距離の制約を受けずに観光周遊行動が行えるの3つが示されている。具体的には、幹線道路である国道沿道におおむね30kmの間隔で急速充電器を配置するほか、各市町村の人口規模に応じて24時間対応の充電器を設置した

道内の一般企業で充電器設置を予定している場合は、補助金交付についての申請、条件などを北海道EV・PHV普及促進検討研究会のホームページで調べてみるとういだろう。



全道130カ所まで増えてきた急速充電ステーション。※写真は美瑛町道の駅
広がる！充電ネットワーク
電気自動車用充電スタンドが検索できます
<http://ev.nissan.co.jp/NETWORK/map.html>



北海道日産自動車株式会社 営業支援部 納谷 和博さん



1日の走行距離は40～50kmほどで充電で困ることはないという

実は試乗するまでは、電気自動車はおもちゃだと思っていたんですけど、点検でディーラーさんにお世話になったときに、話のついでにとリーフに試乗させていただいた途端に、脱帽しました。と



北海道EVオーナーズクラブ会長 阿部晋也さん

阿部さんが立ち上げたEV応援サイト <http://ev-c.jp/>

リーフファンになりすぎて応援団長やっています

自宅でリーフに充電する阿部さん。バッテリーへの充電は一晚で100%まで。200ポルトコンセントを使用している。

とにかく圧倒的な加速感と、静けさに、こんなクルマがあるんだと、あらためてリーフのすごさを体感したわけです。そして試乗から帰って、ディーラーの営業さんに言った言葉が「納車までどれくらい!」。仕事では、環境保全のためにアフリカザンビアにてバナナの茎から採った繊維で作った「バナナペーパー名刺」を取り扱っているのですが、エンジンがないリーフもまた、環境に優しいゼロエミッションです。私の場合、燃料代は月に平均4万円から電気代の2千円だけになり、オイルもラ

仕事では、環境保全のためにアフリカザンビアにてバナナの茎から採った繊維で作った「バナナペーパー名刺」を取り扱っているのですが、エンジンがないリーフもまた、環境に優しいゼロエミッションです。私の場合、燃料代は月に平均4万円から電気代の2千円だけになり、オイルもラ

雪道走行に対する不安はほとんどないと感じます

全国的に展開している「リーフモニターキャンペーン」には北海道日産だけでも6月には120件も申し込みがありました。札幌市内の日産販売では月平均7台ほどリーフを販売していますが、その数字と比較すると関心の高さが伝わってきますね。札幌市内の急速充電施設インフラが十分すぎるほどに整備されていることも背景にあると思います。

降雪期間が他の都府県と比較してもかなり長い北海道ですが、電気自動車に対する不安も多く聞かれます。しかし実際には、雪道になった方々からは、雪道の走行はまったく問題なく、むしろハイブリッドよりも乗りやすいという声が多く聞かれます。これはリチウムバッテリーを車両の床下に配置することによる低重心化と、モーター駆動だからこその細やかなトラクションコントロールが快適な走行性能を生み出しているんですね。

これからリーフ購入をお考えの方は、

お問い合わせ先	リーフ販売会社名	電話番号
	旭川日産自動車株式会社	0120-125-523
	北見日産自動車株式会社	0120-245-523
	帯広日産自動車株式会社	0120-153-923
	釧路日産自動車株式会社	0120-153-923
	北海道日産自動車株式会社	0120-090-823
	札幌日産自動車株式会社	0120-098-423
	日産プリンス自動車株式会社	0120-40-4923
	函館日産自動車株式会社	0120-228-623